

### 3 カーネーション2年切り栽培における据え置き株の2回切り返し法

#### ねらいと成果

カーネーションの2年切り栽培では、高くなり過ぎた草丈を低くすることによる作業性の改善や、ほ場内のハダニ類などの密度を低くして害虫防除を容易にするため、1年間栽培した株（据置き株）を切り返す方法がとられる。しかし、高温時にいきなり低い草丈で切り返すと、株枯れの発生が多い。そこで株を1回で切り返すのではなく、2回に分けて草丈を段階的に低く切り返す、又は側枝を半分ずつ2回に分けて切り返したところ、生存株率が上昇し、収量も増加した。

#### 内容

##### 切り返しの手順

切り返しは1回目に一定の草丈で切り返し、1か月後に2回目として15cmの草丈で切り返す「高さ別2回切り返し法」又は株当たり4本発生している二次側枝を15cmの高さに1か月間隔で2回に分けて切り返す「側枝別2回切り返し法」とした（図）。

##### 生存株率への影響

実験には比較的株枯れしやすい品種‘エクセリア’を用いた。高さ別2回切り返し法として1回目の切り返す草丈を30cm、50cm、70cmと変えて比較した。2回目切り返し5週後の生存株率は1回目30cmで

は100%、50cmでは81.8%、70cmでは66.7%となり、切り返す草丈が低いほど、生存株率が上昇した（表）。側枝別2回切り返し法の2回目切り返し5週後の生存株率は100%で、1回で15cmの高さに切り返す従来法の68.8%より高かった。

##### 収量への影響

高さ別2回切り返し法の1㎡当たりの総収量は1回目の切り返す草丈が30cmでは336.5本、50cmでは351.0本と同程度で、70cmの211.5本より多かった（表）。側枝別2回切り返し法の10～12月の1㎡当たりの収量は114.6本で従来法の40.6本の約3倍となり、総収量も339.6本と多かった。なお、切り花品質はいずれの切り返し法においても変わらなかった（データ省略）。早期の収量を得るには側枝別2回切り返し法が、高さ別2回切り返し法より有効と考えられた。

#### 今後の課題

高さ別2回切り返し法でのヘッジトリマ等、剪定用機械の利用など、切り返し作業の省力化技術を開発する。

山中 正仁（農業技セ・園芸部）

（前淡路農技・農業部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）



図 2年切り栽培における2回切り返し法

表 カーネーション2年切り栽培における2回切り返し法が生存株率及び収量に及ぼす影響

切り返し法 <sup>1)</sup>	2回目切り返し 5週後生存株率 (%)	収量 (本/㎡) <sup>2)</sup>				
		10～12月	1～3月	4～5月	合計	
高さ別2回切り返し (1回目の切り返し草丈)	30cm <sup>3)</sup>	100.0	63.5a	128.1ab	144.8ab	336.5a
	50cm	81.8	46.9ab	133.3a	170.8a	351.0a
	70cm	66.7	26.4b	86.8ab	116.6ab	229.8b
側枝別2回切り返し <sup>4)</sup>	100.0	114.6c	96.9ab	128.1ab	339.6a	
1回切り返し (従来法) <sup>5)</sup>	68.8	40.6ab	70.8b	100.0b	211.5b	

1) 1回目切り返し2005年6月14日、2回目切り返し2005年7月14日

2) ベンチ面積当たり

3) 1回目の切り返しの草丈、2回目は草丈15cmに切り返し

4) 1回目二次側枝4本のうち2本を15cmの高さで切り返し、2回目残り2本を15cmの高さで切り返し

5) 7月14日に1回で草丈15cmに切り返し

アルファベットはボンフェローニの多重比較、異なる文字間で有意差あり（5%水準）

品種‘エクセリア’2004年7月8日に定植し、11か月栽培した株を使用